

Case Study

社内監査 支援サービス

情報のスピード、正確性をあげる

業務監査を通じて社内の業務ルール・手順の遵守を図り、
遵守されていない業務を部門長自らが問題改善提案



お問合せ先:株式会社アフォード・ビジネス・コンサルティング

〒160-0023東京都新宿区西新宿6-16-6 タツミビル11F

TEL:03-3345-2710

〒450-0002名古屋市中村区名駅5-23-17 名駅フォレストビル4F

TEL:052-990-9132

業務ルール・手順の見える化をしてみたが…

当社は市販パッケージソフトを使って販売・購買・会計業務を行っていました。ところがこのソフト導入を担当した社員が退職し、情報システムの運用方法が拠点間で違うことが発覚し、情報システムの強みである情報のスピード、正確性が発揮されなっていました。

この状況を打開するために、販売・購買・在庫管理・会計業務の見える化を目標に、各業務のルールおよび具体的手続きを会社をあげて見える化を図りました。ところが、見える化を図ったにもかかわらず、会社目標である情報のスピード、正確性の向上を実感できずにいました。

「自分たちのルール」を実現したい

「会社をあげて」決めた業務ルール・手続きが守られていないのはあきらかでしたが、「どの業務が」「なぜ」守られていないのかは依然不明のままでした。

社長には「業務ルールや手続きを守らせる、道から外れた手順を軌道修正させるのは誰なのか?」という疑問がありました。その答えはすぐに社長の頭に浮かびました。「次世代の経営者候補である各部門長だ!!」守られていない業務ルール・手続きを徹底的に監査し、各部門長からの改善提案を受け入れることによって、「自分たちのルール」を再構築することになりました。

1年間にわたり各部門を監査

各業務に関する業務ルールおよび手続きを部門ごとに

- ①情報システムデータ監査
- ②100項目以上の監査項目を実施
- ③各部門長への改善報告書作成支援

を1年間にわたり実施し、部門長と改善提案をまとめていきました。

事例業

- 産業用部材商社A社
- 売上高:約5億円
- 従業員数:約70名
- 資本金:6千万円
- 本社、営業所5か所、海外に製造委託工場

社内協力体制と監査担当人材

①「監査=監視」という悪いイメージ

従業員のほとんどは監査と聞くと「一方的なダメだし」というイメージしかありませんでした。「自分たちのルール」を自分たちで実現するためには、従業員の理解と協力が必要不可欠です。

その理解と協力をあおぐために、部門長と従業員に対して「監査」はきっかけであり、そのきっかけから会社に対して「こうしましょう」と提案できる場が与えられたのだと、根気強く説明し、最終的には従業員からの理解を得ることができました。

②社内人材には監査業務経験がない

すべてを外部に任せてしまうと「自分たちのルール」は作れません。しかし、監査業務経験のある人材が社内にはいませんでした。このジレンマを解消するために、兼任ではありますが社内人材を指名し1年間アフォードとともに監査業務を経験させることで、業務体験の効率的吸収を図りました。

今後

業務改善は日々の積み重ねです。計画→実行→チェック→改善のPDCAサイクルを従業員自らが実施することが肝要です。

業務監査を通じて培った「自分自身による業務改善」を愚直に実行することで、情報のスピード・正確性の確保を向上させ続けていきたいと考えていらっしゃるそうです。

業務監査・改善プロセス

